

採用年度	平成 31 年度
お名前	大里 健
派遣期間	平成 31 年 4 月 1 日 ~ 令和 3 年 3 月 31 日
書面合議・面接審査区分/小区分	数物系科学/素粒子、原子核、宇宙線および宇宙物理に関連する理論
派遣国	フランス
受入機関名	Institut d'Astrophysique de Paris
受入機関部局名	—
研究概要	宇宙における物質は、重力と加速膨張の相互作用によって大規模構造と呼ばれる網目状の構造を形成する。この大規模構造の進化は暗黒物質や重力理論の性質を色濃く反映している。大規模構造の観測を通して暗黒物質・暗黒エネルギーの本質を探るため、国際的な観測計画が立案・実行されている。そこで、将来的な観測に向けて、大規模構造の統計量を高速かつ高精度に計算する理論的手法の開発を目指す。
派遣前の準備についてのアドバイス	フランスで研究滞在する場合には研究者ビザの申請を申請することになると思います。申請には受入協定書(convention d'accueil)が必要となりますが、この書類の発行に数ヶ月かかることもあります。したがって、できる限り早く受入機関に発行をお願いする必要があります。また、入国後に改めて滞在許可証(titre de séjour)を申請しなければなりません。滞在許可証の発行には運が悪いと 3 ヶ月以上かかることもあるので、こちらも到着後直ちに手続きを進めることをおすすめします。私を含む多くの場合、受入機関の事務の方が一部の手続きを代行してもらえますので、時間がかかる以外に特に問題はありませんでした。発行が著しく遅れた場合、フランス(シェンゲン圏)から出国すると、再入国不可の上ビザ再発行が必要になることもあるので注意が必要です。
派遣中に問題になりうることについてのアドバイス	研究生活で最も問題となるのが言語の問題ですが、私の受入機関では博士研究員の多くがフランス外の研究者であったため、英語で問題なく研究生活を送ることができました。一方で、受入先によってはフランス語が(事実上)公用語化されている場合があるので注意が必要です。いずれにせよ、この国で日常生活を送るには、ある程度のフランス語の習得は避けて通れません。また、近年の状況を考慮すると、パリの治安はあまり良いものとは言えません。2015 年のパリ同時多発テロ事件以降、散発的にテロによる攻撃が起こっています。さらに、日常的な犯罪(スリ・強盗)も他のヨーロッパの都市に比べ多いと思います。治安の悪い場所では夜間に一人で出歩かないなど基本的な防護策が必要になると思います。
派遣先での生活の様子	パリは慢性的に住宅不足と言われており、日本から住宅を探すのはかなり困難です。パリ市南部に国際大学都市日本館という寮があり、研究者であれば申請の上 2 年間居住することができます。全体的に物価は東京の 1.5 倍というのが実感です。パリには日本食レストランや日本食料品店なども多く、食生活については欧米の都市の中でもかなり恵まれているように思います。
海外特別研究員に採用されて良かったこと	最大の利点はやはり研究時間の全てを自分のプロジェクトに充て、経済的な不安を抱えることなく研究に専念できる点だと思います。日本とは異なる環境に自身を置くことで、多様な研究テーマに触れる機会が増え、新たに共同研究を始める契機にもなりました。また、ヨーロッパの研究機関が主導している衛星観測計画にも新しく携わることができ、自身の研究ネットワークを広げることにもつながりました。